

科目名	看護薬理学 I (医薬品総論・感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物)				DP4 DP5	看護高等課程	
学年	1年	分野	専門基礎 薬理	時間数	35時間	担当 教員	外部講師
科目 概要	臨床看護の場において薬物治療に携わるためには、臨床薬理学の知識が必要である。薬物療法の目的や薬理作用などの概念、ならびに、安全な医薬品の使用や管理について学ぶ内容とする。 さらに、感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物についても知り、基礎的知識を深める。						
到達 目標	1. 薬物療法の目的や、薬物と生体との相互作用によって起こるさまざまな現象について理解することができる。 2. 医薬品の使用や管理に必要とされる法律・調剤等の知識を習得し、薬物療法の安全性と有効性について理解することができる。 3. 感染症・悪性腫瘍・免疫・炎症反応・末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物について理解することができる。						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1~17	薬物に関する基礎知識	薬物とは、薬物の作用、薬物の適用				講義	外部講師
	医薬品に関する医療事故 対策と看護の役割	医薬品側の要因と対策、看護師側の要因と対策、医薬品情報					
	抗感染症薬	抗菌薬（抗生物質・合成抗菌薬）、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬（抗原虫薬・抗蟻虫薬）					
	抗悪性腫瘍薬	おもな抗悪性腫瘍薬、抗悪性腫瘍薬の副作用					
	免疫、炎症反応に関連する薬物	免疫抑制薬、リウマチ治療薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬・解熱鎮痛薬、ワクチン・抗毒素					
	末梢神経系に作用する薬物	自律神経系の生理と機能、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、神経筋接合部遮断薬・局所麻酔薬					
	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬、睡眠薬・抗不安薬、精神・神経系用薬、抗てんかん薬、認知症治療薬、パーキンソン病・症候群治療薬、オピオイド鎮痛薬					
18	試験	(1時間)				試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	新看護学2栄養 薬理 医学書院 (副読本) Pocket Drugs 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							